

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム (v2.7.2016) | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	名古屋市瑞穂公園陸上競技場	階数	地上6F
建設地	名古屋市瑞穂区	構造	RC造
用途地域	都市計画区域内、高度地区、緑化地域	平均居住人員	35,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,920 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2023年3月7日
敷地面積	219,763 m ²	作成者	
建築面積	30,531 m ²	確認日	2023年3月8日
延床面積	62,169 m ²	確認者	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

= BEE2.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+オフサイト手法

100% 88% 88% 88%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 4.2

Q1 室内環境

Q1のスコア=3.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア=4.4

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア=4.4

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア=3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア=4.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア=3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
2026年に開催されるアジア競技大会のメイン会場となる瑞穂公園陸上競技場の建築計画。周辺の公園整備も併せて実施しスポーツイベント時以外は公園に開放される陸上競技場コンコースと一体の「8の字ループ」を中心に瑞穂公園の持つ多様な価値を高める。「空と森と大地の陸上競技場」というコンセプトのもと緑屋根、木格子、段丘状のデッキにより周辺環境との調和を図る。		
Q1 室内環境 居室において夏季26℃・冬季22℃を実現可能な設備容量の確保、緑屋根構造による昼光利用での明るさ確保、換気設備のCO ₂ 制御、屋内全館禁煙などにより室内空間の快適な居住性を確保している	Q2 サービス性能 内装・外装仕上げも防汚性や清掃性に配慮、設備部材や機器の耐久性・更新性に配慮、BCP機能確保、高い耐震性能により高水準のサービス性能としている。さらに、名古屋福祉都市環境整備指針の整備や配慮をしていくことがのぞましい内容を満たした計画としている。	Q3 室外環境 (敷地内) 公園の豊かな自然を感じられる園路計画とし、住宅地の中に建つ陸上競技場として高さを抑えて圧迫感の低減を図りながら、陸上競技場の壁面には愛知県建材を使用した木格子を配置して公園の自然と調和する計画。
LR1 エネルギー 高い外皮性能による熱負荷の抑制、高効率設備の採用による環境に配慮した設備計画、緑屋根構造を利用した自然採光、クールシェードを利用した外気負荷低減、中央監視設備によるエネルギー消費量の把握が可能な計画としている。	LR2 資源・マテリアル 節水型器具の選定、雨水ろ過システムによる中水のトイレ洗浄水利用、接着剤と塗料で有害物質を含まない材料を使用、躯体・仕上下地・仕上材の分離施工などにより、資源保護・再利用に配慮している。	LR3 敷地外環境 駐輪場、駐車場の適正数配置による交通負荷抑制に配慮、混雑対策として事前精算機設置や、事前予約サービスを行う計画。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

名古屋市瑞穂公園陸上競技場

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				3.7
LR1	エネルギー	3.9	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.4	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				3.8
Q3.1	生物環境の保全と創出	4.0	0.12	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	有	0.012
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.06	
3. 循環型社会				4.1
LR2.1	水資源保護	4.2	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	4.1	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.7
2. 自然共生	評価点 = 3.8
3. 循環型社会	評価点 = 4.1

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。